「島田がこうなったらいいな」をプチ実現

ワークショップではまず初めに、各自興味があるカテゴリを選び、それを元に参加者を4チームに振り分け。それぞれのチームが、505件の投稿を題材に時間と予算に制限があるプチ実現を、自分たちだからこそできる内容で企画しました。

1 農業未経験者チーム

お茶巡りウォーキング

テーマ　農 業　にぎわい

〈実施日〉3月6日 9:00〜12:00

さすき園社長の話に耳を傾ける様子

農業と賑わいに興味があるメンバーで結成した農業未経験者チーム。「島田の魅力を再発見して情報発信する」ことを目的にお茶巡りウォーキングを企画しました。

ウォーキング当日は、蓬莱橋を出発して右岸に渡り、七福神の山を抜けて、広大な茶畑の景色を楽しみながら、中條景昭像を通り抜け、お茶のテーマパークがコンセプトのお茶のさすき園に到着。さすき園1番人気のジェラートを堪能しつつ、社長の大塚さんから茶農家として、そして経営者として大切にしていることや想いを聞くことができました。

普段、車で通るだけでは気が付かない再発見した島田市の魅力を「#島田茶ウォッ茶ー」でインスタグラムに投稿しましたので、よかったらご覧ください。

2 手前味噌チーム

苗植え体験ワクワクワークショップ

テーマ　子育て　農 業

〈実施日〉3月12日 9:00〜12:00

みんなで苗植え体験

大人も子供も楽しく自然に触れあえる場を作りたいという想いから「畑で遊ぼう」をコンセプトに苗植え体験ワークショップを企画。会場となる畑は東光寺の里にある、そのだ農園にお邪魔する形で実現しました。

当日は、自由に歩き回るニワトリと触れ合いつつ、果物の苗植えを行ったあと、トラクターなどの農業マシーンに乗せてもらいました。子どもたちが農業マシーンに乗っている間、大人は味噌づくり講座を受講し味噌づくりについて学びました。

「農業に楽しく関わることで、子どもたちが農業に興味を持ってもらえれば嬉しい」とそのだ農園の園田さん。ワクワクワークショップ参加者だけでなく、協力者の園田さんの想いも叶えることができたプチ実現となりました。

3 駄菓子屋チーム

駄菓子は世代を超える!!

テーマ　子育て　にぎわい

〈実施日〉3月21日 13:00〜16:00

駄菓子は世代を越えて交流を生みます

タイトルの通り、駄菓子の「世代を超える力」を借りて老若男女問わず交流できる場を提供することを目指しました。

21日の当日は、朝顔の松公園を会場に、チームメンバーで持ち寄ったタープやテーブルで駄菓子屋をオープン。駄菓子の提供方法は、子どもたちと一緒にチラシを使って箱を作りワークを行い、ワークで作った箱に好きな駄菓子を入れてもらうようにしました。駄菓子を通して世代を越えた交流が生まれました。

駄菓子を食べた後は、牛乳パックを使ったコマづくりワークや手作り凧揚げワークを行い、たくさんの人が楽しめる場を作り出すことができました。

4 18コの良い所チーム

みんなでつくる良いとこMAP

テーマ　にぎわい　子育て　福 祉

〈実施日〉4月16日 13:00〜16:00

みんなで良いとこMAP 作り

「蓬莱橋は右岸にこそ見どころがあるのでは！？」そんな会話から右岸探索ツアーを開催することになりました。当日は集まった参加者全員で蓬莱橋を渡り、右岸の探索を行いました。各自発見した良いとこスポットをスマホで撮影。探索を終えて蓬莱橋に戻ったら、みんなで撮影したスポットを持ち寄り、良いとこMAPを作成しました。

MAP作成のポイントは通常の案内MAPには載っていない、歩いて見つけたオリジナルスポットをMAPに掲載する点です。道中に咲いていた花やキノコや草の根っこまで参加者が気に入ったスポットをどんどん撮影。感性豊かなMAPが完成しました。

島田の良いところを多くの人に知ってほしいという目的で企画したこのイベントですが、企画した自分たち自身が良いところを発見することができました。完成したMAPはSNS等で発信していきます。

シマシマ新聞

〈第３号〉
2022年5月発行
NPOシマシマ
fb.me/npo.shimashima

島田市緑茶化計画

日々感じている「島田がこうなったらいいな」を形に

市民同士で実現したい 理想の島田市像を募集

令和3年9月にNPOシマシマと島田市市民協働課の協働で、市民同士で実現する「島田がこうなったらいいな」を島田市民に向けて意見募集しました。その結果505件の「島田がこうなったらいいな」が集まり、12月にこれらの投稿をカテゴリ別に分けて、見やすくデザインし、プラザおおるり1階の展示ホールで「島田がこうなったらいいな展」を開催。来場したまちづくりに興味のある市民と協働のまちづくりについて意見交換を行いました。

翌年の2月には、505件の投稿を実際に形にするためのワークショップを開催。集まった30人ほどの島田市民が、各々興味のあるテーマごとに4チームに分かれて、505件の投稿を選別しながら意見を交わし、各チームごとに企画した「島田がこうなったらいいな」を実際に形にしました。

集まった意見の中で何ができるか検証

市民が自ら行動

テーマは協働のまちづくり

「505件の島田がこうなったらいいなをみんなでプチ実現しませんか？」そんな呼びかけに集まったワークショップの参加者は島田市民を中心に約30名。

年齢性別ともに偏りなく20代〜70代まで幅広い世代での取り組みとなりました。

展示会で子どもの絵を展示

投稿のカテゴリに合わせたテーマでお題を出し、子どもたちの自由な感性を絵に描いてもらいました。展示会に子どもたちの発想も仲間入りしました。

投稿の他に市内の協働の事例や、協働とは何か？などもあわせて紹介。さらに来場者に展示会を見て感じたまちづくりについてのアイデアを付箋に書き出してもらいました。

島田市の協働も紹介

カテゴリ別PICK UP

私だったらこうしてみたい！

505件の投稿と一緒に「私だったらこうしてみたい」提案も記入してもらいました。市民目線で自分ができるかもしれないアクションの一部を紹介します。

子育て　給食センターに給食を受け取りに行く

未就園児の昼食について、準備の大変さの軽減や、栄養バランスの確保に加え、社会に関わることで孤独感の軽減などを考えたアイデア。(30代女性)

農 業　地産地消B級グルメ祭りの開催をする

よりよい教育や若者の地元離れ対策として、島田市の農家の野菜を使用したB級グルメ祭りを開催。交流する場を作り、地元のすばらしさに触れる機会を生み出すことが狙い。(20代男性)

賑わい　何をしたらよいかわかりませんがお手伝いします

島田には良いお店がたくさんあるが、あまり知られていないのではと感じている。何をしたらよいかわからないけれど宣伝するために貢献したいとの想いからの投稿。(40代女性)

バリアフリー　パラスポーツ体験イベントの開催

障がい者と健常者の溝を埋めるためは、楽しみながら交流する場を作り出すことが大切と考えたことからのアイデア。(30代女性)